

青少年ホーム祭、開催！

10月16日(日)、勤労青少年ホームで「秋祭2005@HOME」が開催されました。ダンスやキックボクシングなどサークルによるアトラクションや、高校生バンドによる



演奏、講演などが行われました。



いつも元気



ちびちゃんひろば

●住民主体のまちづくりから

災害時に地域を守るご近所のネットワーク〈上町の取り組み〉

上町自治会では、昨年、市と住民と一緒に地域の除排雪を考える会議のモデル地区になり、除排雪の問題に地域をあげて取り組みました。それを契機に、地域のコミュニティが高まり、生活環境について住民の皆さんで話し合ったところ、町内には高齢者が多く、災害時の行動について不安があるという意見がありました。



そこで上町自治会では、9月25日(日)、消防署など市の協力を得ながら、震度6の地震が発生したと想定して、防災訓練を行いました。この日を迎えるに当たり自治会では、町内を8つのブロックに区分けし、それぞれに防災責任者を決めたほか、ブロックごとの一時避難所の設定や近隣への声掛け体制の整備を3カ月間かけて話し合ってきました。

最終避難場所である『サンピノ』にはブロック単位で住民の皆さんが続々と集合。訓練終了後には実際に動いてみて気がついたことを意見交換し、今後の活動に役立てていくとともに、災害時の地域コミュニティの重要性を再認識しました。

●参加者の声

「今回の防災訓練でも、『今度はこうしてみよう』など次の活動につながる前向きな意見が、住民から出てきています。

除雪や防災などの取り組みを通じて、徐々に地域の一体感が生まれ、今後、住民みんなが地域の課題を考える基礎ができてきたように思います」



このような例はほかの地域でも見られますが、明治末期以降は、学校教育の普及や私塾の禁止などによって個人的な活動は衰微していきま。近代教育の欠点でもあります。地域社会にはさまざまな個性をもった人がいます。そういう人々から学ぶことは、大変重要だと思えます。(古内)

今はひっそりと建っている記念碑ですが、土谷家は代々地域の医療や教育に貢献し、人々から慕われました。

この方向に転じる人も多くありました。この地域には神道に傾倒し、死後は神道墓に入る人も多くありました。

土谷家の六代目雅貞は画業に向かい、寺崎広業の天籟画塾に入って画家としての将来を嘱望されました。しかし病を得て早く没し、師の広業から追悼の書簡が寄せられています。



のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

教師記念碑(二)

「土谷詮貞・土谷廣文」

荻橋・常盤神社がある台地の隣の小高いところに、写真にある石碑が二基建っています。土谷家は江戸時代中ごろに医業を始め、詮貞はその三代目、廣文は四代目です。幕末から明治にかけて地域の医療に尽くした人たちで、詮貞は天保五年に塾を開いて子弟を教育したようです。写真の碑はその子弟たちが明治になってから建てたものです。荻橋・常盤・天内はこのよう